

専攻医 研修プログラム（血液内科コース）

● 診療科名 血液内科

● 研修責任者 服部英喜（部長）

● スタッフ

服部英喜（主任部長） 日本内科学会認定総合内科専門医、指導医
日本血液学会認定専門医、指導医
日本がん治療認定機構 がん治療認定医
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医
ICD 制度協議会 ICD(インфекションコントロールドクター)
日本医師会認定産業医

桑山真輝（部長） 日本内科学会認定総合内科専門医、指導医
日本血液学会認定専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
日本がん治療認定機構 がん治療認定医
日本医師会認定産業医

● 施設認定 日本血液学会認定血液研修施設

● 研修内容・到達目標

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の発症は後をたたず、これらは生活習慣に依存しないので、発病を予防する手立ては残念ながらない。一昔前であればこれらの疾患の一部、とくにリンパ腫の一部は一般内科、あるいは該当診療科にて自前で治療をすませていた時期もあった。しかし近年では分子標的治療などが開発され、病型に応じたオーダーメイドの治療を要求されるようになり、血液内科医主導の治療が必要である。にもかかわらず血液疾患専門施設は必ずしも多くなく、血液内科専門医が絶対的に不足しているのが現状である。そこで当院では前記の造血器腫瘍のみならず、貧血一般、血小板減少症などの鑑別診断・治療において自信をもって行える血液内科専門医の育成に力をいれたいと考えている。

寛解・治癒が望める症例では積極的な化学療法を適正・安全に行える能力を習得し、高齢者・合併症併発症例には長期延命のため QOL 療法、緩和治療を図るなど、個々の患者さんの病態・年齢・背景に応じた治療を選択できる柔軟な

思考の獲得もめざす。

<実績> 2023年度に血液内科で診療した血液疾患新規入院患者数は82名であった。内訳は悪性リンパ腫38名、急性白血病3名、多発性骨髄腫7名、骨髄異形成症候群10名、再生不良性貧血3名、特発性血小板減少性紫斑病6名その他15名（ATL、自己免疫性溶血性貧血、骨髄増殖性腫瘍など）であった。

- 取得できる認定医・専門医
日本血液学会認定専門医